



Kumamoto University Library Bulletin, Vol.25, No.1, Jan. 2000

- ハーン生誕150年記念企画(1)
 - ハーンとスペンサー
 - 図書館と情報リテラシー
- 永青文庫蔵雑記類より(六)
 - 秀吉の像の行方
- Elsevier社の全ての電子ジャーナルが利用可能に
- 学術資料調査研究推進室を設置



ハーン生誕150年記念企画 (1)

ハーンとスペンサー

里見 繁美

今年、西暦2000年はラフカディオ・ハーン（小泉八雲 1850-1904）の生誕150年にあたり、世界各国でさまざまな記念的行事が催されますが、その記念する年に本館報でもハーンの small 特集を組むことになりました。以下、第一稿です。

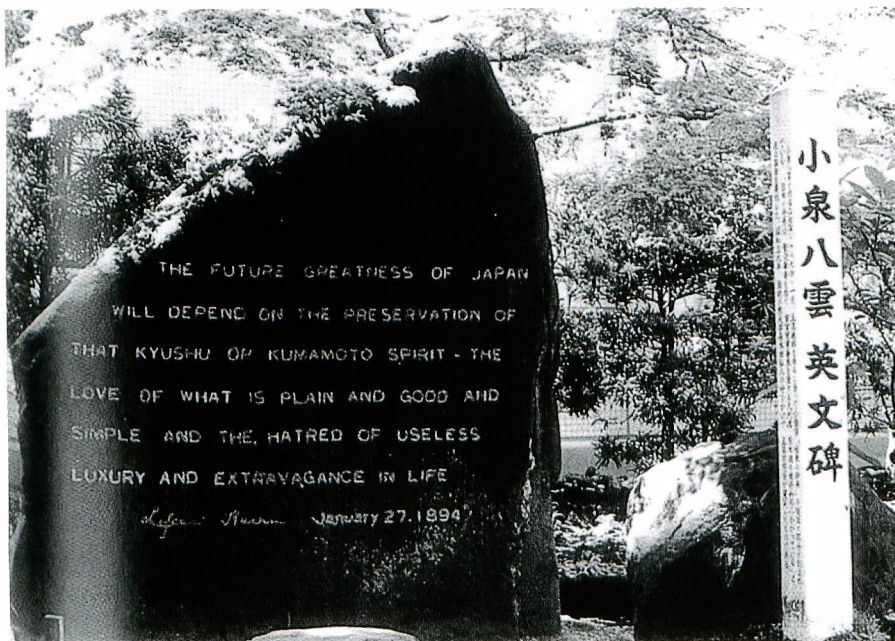
熊本大学のキャンパス内、あるいは周辺には、ラフカディオ・ハーンにゆかりのものが多く見受けられます。五高在職3年間というのは決して短い期間ではないから、当然といえば当然かもしれません。

先ず、小峰墓地にある石仏「鼻かけ地藏」はもっともよく知られたものでしょう。この石仏は鼻がかけているところから、ハーンは自分自身をそれに投影させて、お互いに身体の不自由さを慰め合っていたのではないのでしょうか。熊本において、彼が息抜きできた数少ない場所の一つでもあったわけです。

小峰墓地以外にもハーンゆかりのものはありますが、こうしたゆかりのものの中で、私たち熊本大学に身を置く者がもっと注目しなければならないものは、体育館横にある、おむすび型の石で作られたハーンの記念碑です。彼の五高における講演の、この最後の部分はよく引用されます。ある小料理屋さんでは、この部分を紙に印刷してお客さんの前にどうしようと提示していました。また熊本のある会社で

は、その運営方針を著した冊子の最後のところに、まさにこの部分を引用していました。さらに、熊本県の知事を経験され、首相まで経験された方がこの部分の一部を引用されたことは、私たちの記憶にまだ新しいことでしょうか。そうした意味においては、よく知られた部分なのかもしれません。文言をよく吟味してみると、確かに魅力的なものを多く持っていると言えます。それでは、ハーン自身にとっては、あの主張のような生活が送れたのかといいますと、実は送れなかったのです。熊本での食生活、ライフ・スタイルを見てみれば、それは一目瞭然です。では何故、自分にはできないあのような主張を、五高の学生・職員にしたのでしょうか。種明かしをしますと、ハーバート・スペンサーの彼への思想的影響ということなのです。

1885年頃、アメリカのニューオリンズにおいて、スペンサーを知って以来、完全にハーンは彼に「洗脳」されてゆきます。これはハーンにのみ起こった現象というわけではなく、ご存じの通り、アメリカにおいても、また日本においてさえも、スペンサーは驚異的な影響力を振るったわけです。明治の頃の知識人たち——森有礼、金子堅太郎等——が日本の新たな建国について、スペンサーから意見をうかがったり、あるいは直接会いに行き相談したりし



体育館横に佇むハーンの記念碑

THE FUTURE GREATNESS OF JAPAN WILL DEPEND ON THE PRESERVATION OF THAT KYUSHU OR KUMAMOTO SPIRIT, - THE LOVE OF WHAT IS PLAIN AND GOOD AND SIMPLE, AND THE HATRED OF USELESS LUXURY AND EXTRAVAGANCE IN LIFE.

Lafcadio Hearn January 27, 1894

ている事実を知れば、その影響の程度が日本においても伺い知ることができます。いずれにしても、このようにスペンサーから非常に強大な思想的影響を受けたハーンは、彼の考え方にのめり込んでいくのです。そして中でも、とりわけ「適者生存」を中心とした進化論思想の考え方が、この五高での講演を行う時に、ハーンの脳裏の中核を占有していました。自分自身にはできないことでも日本人にはできる生き残り戦術を、彼らに伝授したのです。つまりどういうことかと言いますと、全世界が、食料等を含めて、生き残るためのサヴァイヴァル戦争に突入したときに、日本人のライフスタイルのように、同じ事を成し遂げるにしても、非常に安価な生活で済む形態を維持してゆけば、他国に迷惑をかけず、必ずや生き残ってゆけるという主張です。ですから、このハーンの五高での講演は、一言で言うと、彼が日本においてあるいは熊本において観察したものに対して、スペンサー理論を適用してまとめた講演という見方ができるわけです。つまりハーンの観察とスペンサー理論の合体ということです。あの碑はその象徴なのです。「バブルの時代」を経験しますと、なお

さら彼の言葉が痛烈に響いてきますが、その背後にはスペンサーという彼にとっての「神様」が控えていたのです。このことは彼の記念碑のみならず、熊本を舞台にした作品、たとえば「柔術」や「九州の学生とともに」にいたっても共通して言えることです。これらの作品には至る所にスペンサーの顔が登場してきます。

一度、スペンサーに注目して、これらの作品を読むことをお薦めしたいと思います。

なお、本学附属図書館では、ハーン著作の初版本等を収集した「八雲文庫」はじめ、ハーン関係のコレクションが充実しており、100年前のハーンの作品を直に手にすることが可能です。図書館に足を運んで、是非一度ご覧下さい。

(さとみ しげみ 文学部助教授)

* 八雲文庫、ラフカディオ・ハーン・コレクションは、中央館の貴重書庫に別置しています。ご覧になりたい方は、カウンターにてご相談ください。

平成11年度特殊資料展・公開講演会を終えて

附属図書館では、平成11年10月30日(土)～11月1日(月)までの3日間、大学祭《熊粹祭》にあわせて特殊資料展を開催しました。今年で16回目を迎えた今回の資料展は、1637年(寛永14年)キリシタンへの棄教の強制と厳しい年貢の取りたてに抗議して、農民が天草四郎(益田時貞)を首領に大規模な一揆をおこした「天草・島原の乱」をテーマに附属図書館が所蔵している永青文庫(細川家文書)及び松井文庫から絵図、文書など45点が展示されました。「天草・島原の乱」に関する史料は、他大名家とは比較にならないほどの質量であり、天草四郎関係の史料も独占しているといわれています。なかでも、原城にたてこもった農民約3万7千名の一揆勢と、幕府軍12万との攻防戦を描いた絵図「有馬城攻図」、また「四郎家」に相当する一角に、その存在を意識し

たような描きかたをしているきわめて精巧な「肥前国有馬城之絵図」をはじめ数多くの貴重史料の展示に、約350名の見学者は時間をかけて熱心に見入っていました。

また、10月31日(日)には、吉村豊雄文学部教授による「細川家と天草四郎」と題した公開講演会が開催されました。講演では「天草・島原の乱」に際していわば情報センターとなった細川家の関係史料等をもとに、一揆勢の「総大将」とされる天草四郎の実像に迫り、反乱の主人公でありながら、最後までその姿を現わさず幻のように消え失せてしまった四郎は、実際には存在しなかったのではないかとの仮説が展開され、一般市民など約100名の参加者からは大変面白かったとの感想が数多く寄せられていました。

図書館と情報リテラシー

濱 崎 修 一

はじめに

平成12年度前期の教養科目（総合科目）に新しく「情報メディアとネットワークの活用」という題目の授業が開講されることになっています。

高度な情報化社会を迎えた今日、膨大な情報資源の中から必要な情報を的確に収集し、それを活用できるかどうかは、学問をすすめる上でたいへん重要なことです。この授業は情報リテラシーを高め、学生自らが学び、新たな知的創造を可能とすることを目的として計画されたものです。授業の内容は、効果的な図書館の利用方法、各種メディアの特質、情報の生産と流通のプロセス、ネットワークを活用した情報収集、レポートの書き方、インターネットと情報倫理、著作権などで、講義と演習で構成されます。授業には附属図書館及び総合情報処理センターが協力し、特に演習は図書館職員が全面的に支援する予定です。

学術情報の電子化の進展

コンピュータとネットワーク技術の発達によって、私たちは多様な情報媒体と高度な伝達手段を持つようになりました。現在では画像や音声も扱うことができる電子的メディアも、図書や雑誌などの紙媒体と同じように日常生活で容易に利用できるようになってきました。電子化された情報はネットワークを介することによって、時間と空間を越え、地球規模の知的コミュニティ形成を可能としています。知の世界にかかわる大学においては、早くから教育研究活動のあらゆる局面で、電子化された情報が積極的に活用されています。

大学図書館は大学における学術情報活動を支援する立場にあり、これまでも情報の電子化に積極的に取り組んできました。図書や雑誌の蔵書目録をオンラインで検索可能としたOPACシステムの構築、各種のデータベースを購入して学内LANによって研究室から利用できるようにするサービスなどは多くの大学で実現しています。最近では

学位論文や紀要、研究報告書など、学内における研究活動の成果（全文）を電子化したり、図書館に所蔵している貴重書や古文書などの画像をデジタル化してインターネットに公開するなど、情報発信の試みも行っています。さらに、インターネットを介して利用できる電子ジャーナルの導入などもすすめているところです。

情報リテラシー教育の必要性

このような電子化された情報は今後ますます増大することは疑いのないところでしょう。しかし、電子化された情報は、従来の紙に印刷された情報とは利用の仕方が大きく異なっており、その特徴を知った上で、それに相応しい利用の技術や知識が必要となります。パソコンのオペレーションやデータベースの特性などを知って利用する場合とそうでない場合とでは、利用者がそこから得る結果（情報）に大きな差が生じる場合があります。また、得られた情報を加工、編集する技術も必要ですし、引用する際のルールなどは必ず知っておかなければならないものです。このように情報化社会にあつて情報資源を適切に活用するにはリテラシーの習得はとても重要なことです。今後、学術情報を大いに利用する立場にある学生諸君にとっては大きな意味を持つこととなります。大学には、単にパソコンの操作法といった技術面だけではなく、電子メールやデータベースの理論、ネットワーク利用に関するモラルなども含んだ総合的なカリキュラムが必要と考えられます。

図書館ではこれまで、学生の皆さんに対し必要に応じて、図書館施設の利用方法や資料の探し方、参考図書の使い方などを紹介する利用指導、利用者教育を個別に行ってきました。しかし、膨大な電子化情報が私たちのまわりに存在する現状にあつて、情報を的確に収集して有効に活用するためには、これまでの枠組みを越えた新たな情報リテラシーが必要であり、図書館としてもこの習得

について系統的な支援活動を行うことが重要になっていきます。

図書館ガイダンスの実施

図書館ではこのような認識の下に、昨年の春と秋に図書館利用のためのガイダンスを新たに実施しました。新入生を主な対象とした春のガイダンスでは、図書館に親しむことを基本として、パソコンを使ったOPACの利用法、雑誌記事の探し方、インターネットのアクセス方法などを体験してもらいました。これは1日に5回、延べ64回開催し、新入生のほぼ半分に相当する900名の参加がありました。秋のガイダンスでは、主として高学年生を対象としてレポートや卒論を作成する場合に必要な文献の収集の仕方について、図書資料を使う方法とパソコンを使ってインターネットから収集する方法を実習し、たいへん好評でした。受講した学生からは、インターネットの検索方法やレポートの書き方などについて、もっとくわしく知りたいとの要望が数多く寄せられました。

情報リテラシー教育の支援

最初に紹介しましたように、平成12年度に開講する授業には図書館も協力することになっていきます。図書館ではこれまでも教官の依頼によってゼミの一コマを利用したグループ単位での図書館利用ガイダンスを行ったことはありますが、今回のように授業に全面的に協力するのは初めてのことです。

学術流通拠点としての機能をもつ図書館が、そ

の利用者である学生の情報収集や情報の活用について様々な形で支援することは当然のことと考えられます。これから情報リテラシー教育はますます重要になってくるとは思われますが、そのあり方についてはいくつかの考え方があり、方法についても様々な形態が考えられます。1996年7月の学術審議会の建議「大学図書館における電子図書館的機能の充実・強化について」において、電子図書館的機能の整備方策のひとつとして「情報リテラシー教育への支援」が提言されています。ここでは「大学図書館は、これら電子的教材作成、情報リテラシー教育及び学生の自主学習等に対する支援において、その一翼を担うことが求められている。特に、学生向けの利用者教育は、情報リテラシー教育の一環として、大学図書館協力の下に、全学的に取り組むことができるよう、教育体制の整備が必要である」と述べられています。折しも本学では大学教育センターの建物改修に伴い、情報教育のハード面を充実させる計画が進んでおり、情報リテラシー教育に新たな展開が期待されます。

総合科目に「情報メディアとネットワークの活用」を開講するのは、このようなことに応えるものでもあります。図書館における情報リテラシー教育支援の取り組みは、図書館機能を総合的に向上させる自己啓発活動のひとつとしても位置づけられるとともに、電子化時代に対応した質の高いサービスの実現にも大いに役立つものと考えています。

(はまさき しゅういち 情報サービス課長)



図書館ガイダンス (1)



図書館ガイダンス (2)

永青文庫蔵雑記類より (六)

秀吉の像の行方

西田 耕三

垣塚尹長 (?-1826) の随筆『東臯雑記』(現存、巻6、7、8、9の4巻4冊)巻8は、文化15年(1818)1月から書き始められた。内容は、明和(1764-1772)の初め、江戸で疫病が流行し、髪を抜けた人が僅かに残った髪で結った髪型が、不病者にもはやったこと、祇王が尼になる時、また北条氏康が小田原城で、義士松村喜兵衛が白銀台で切腹した時に詠んだ歌が道に叶ったものであること、備前池田侯が熊沢蕃山のことを、学問には委しいが武芸はだめであると評したこと等、雑多な事柄を記して、近世の随筆の特徴を十分に備えている。その中から、「太閤の像を泰勝寺にまつる件」という文章を紹介しておこう。長いので4つに分けて翻字する。

(1) 太閤秀吉没せられて後、秀頼天下に令して郡国に太閤の廟祠を建しめらる。其美麗壯観言計りなしと。是を号して豊国大明神と言。当御代に至りて、太閤之神社を廢して毀しめらる。其後、東照神君の廟を郡国に立しめ給う。肥後之先時代加藤清正は、就中太閤恩顧の人にて、熊城之里斗立田山と言所に豊国大明神の社有り。善尽し、美尽せり。今に龍田山の中腹に豊国大明神の廢跡有。土俗今に豊国跡と言。其美麗朝日に映じて、白川に魚住せずと言伝う。今の泰勝寺の並木道、豊国へ詣る道なり。

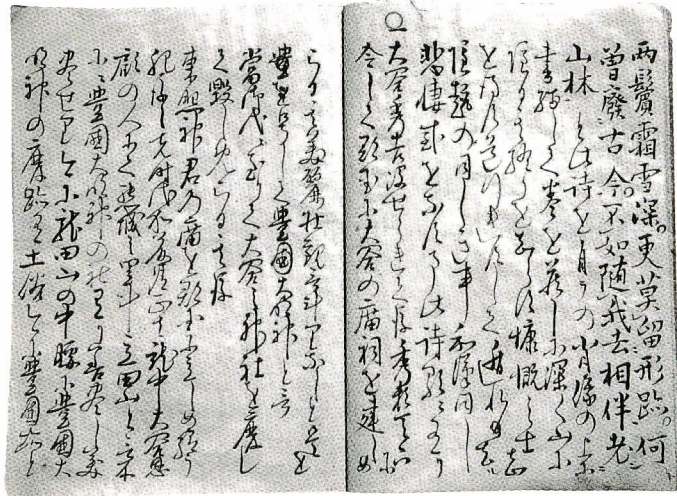
(2) 妙解公当国襲封より後、泰勝寺を小倉より此山に移し立玉う。太閤の肖像有しは百姓共呼り勿体なさに思ひ、百姓家に有しを泰勝寺に贈りしを、大淵和尚置所なく御仏殿之片端に置れけり。妙解公参拝之序に此像を見給ひて、如何成る像なるや、と尋玉ふに、和尚しか〜のよし語られき。其上にて和尚申されけるは、御像を御仏殿に長く扮置候もいか、に候へば、境内に小き祠を取立、夫を安置して天神社なりとも唱置たし、と被申けるに、妙解公暫御思案有て御答へ被成候は、今日御即答に及ばず、得と思惟いたして御答可申、



『東臯雑記』巻8 (1)

とのみ御答にて御帰遊ばし、翌日御書を被遣しに、得と御思案被遊候處、境内にほこらを取立候にも及申間敷、其像を本妙寺に遣し、清正之廟の上に指置候は、清正之靈も必ず大慶に被存べし、との仰により、大淵和尚、本妙寺の院主に談じて太閤の像を贈られしにより、清正の肖像を方丈の仏殿に移し、清正之廟の上に此像を納めらる。俗皆言、上の像は清正若き時の像、方丈に有るは老年の像なる由を申すは誤なり。

(3) 此物語、天明の初年、余が弟真島宇三右衛門と申者之養父真島一十郎秀長、余に語られき。此事は世の人しるべなければ書のこしぬ。一十郎は博覽強記の人なり。学問は水足半助の門人にて、博泉の朋友なり。天明二年十月二十六日没、年七十六歳、唐人町真光寺に葬る。墓銘、大城多十郎文卿先生に余頼て、余又書之。右之一事、余或時本妙寺の僧彼是に試み問しに、やはり土俗の説の



『東臯雑記』巻8 (2)

如し。此物語を噺せば、寺僧都て疑ひて不信、愚なりと言べし。故に記し置ぬ。于時文化十五年戊寅二月晦日。

(4) 又案に、史記高祖記曰、高祖十二年崩群臣奏曰、高起_レ微細_レ揆_レ乱_レ世、反_レ之正_レ、平_レ定天下_レ為_レ漢大祖_レ、功最高、上_レ尊号_レ為_レ高祖皇帝_レ、令_レ郡国諸侯各立_レ高祖廟_レ、以歳時祠_上云。和漢趣を同じうす。

周知の通り、(1)の「豊国大明神の廃跡」は現存する。

(2)の初めの方は文意がとりにくいが、百姓家にあった太閤の肖像を泰勝寺に贈ったのは、百姓たちであったと解しておく。大淵和尚(1587-1652)は京都妙心寺の第139世。寛永19年(1642)に泰勝寺の開山となった。妙解公(細川忠利)は前年になくなっているから、妙解公と大淵和尚の問答は創作である。

(3)の真島秀長は「博覧強記」だけの人ではなく、着実な考証家でもあったことが、永青文庫に残る「歳籍考」をみてもわかる。これは藩校時習館の書籍目録で、資料価値の高いものである。真島秀長の師水足半助は儒者水足屏山のこと。博泉はその子。博泉は神童の誉れ高く、長じて、荻生徂徠や伊藤長胤(仁斎の子)にも将来を嘱望された人であったが、26歳で夭折した。水足父子に関

してはもう一つ名高い話がある。屏山の妻(博泉の実母ではない)が、熊本に流れて来ていた浪人と密通した。屏山は博泉を伴って妻敵討ちに出かけた。事前にそのことを知った浪人は、滞在中の家に仕掛けをして、屏山を返り討ちにし、博泉に傷を負わせて逃げた。近辺の武士が追いかけて浪人を討ち果たしたが、この事件で禄を断たれ、菊池に隠棲した博泉は半歳後に死んだ。水足父子のことは諸書に載るが、本書にも「水足博泉書院」という文章が収められている。大城文卿は壺梁と号した。時習館助教。文化8年没、71歳。垣塚尹長は書にもたくみであったから、「余又書之」となる。

(4)は、中国でも高祖廟を建てたことを記して「和漢趣を同じうす」と言う。和漢に同じ事柄があることに興味を示すのは近世に特徴的な発想で、和漢同想、和漢同情という言葉で随処にみられる。もちろん、『東臯雑記』の他の箇所にもみえる。

(にしだ こうぞう 文学部教授)

Elsevier社の全ての電子ジャーナルが利用可能に

Elsevier社は電子ジャーナル普及のための特別プログラムSD-21を展開していますが、本学では2000年に限りElsevier社（North-Holland, Pergamon等の系列出版社も含む）約1,100タイトルの電子ジャーナルが購読誌・非購読誌に関係なく、無料で利用できることになりました。

利用方法は附属図書館ホームページの「電子ジャーナル」のメニューを選択したのち、サブメニューからScience Directを選択してください。

検索方法としては、雑誌のタイトルや分野等で特定雑誌の特定巻号を選択して閲覧する方法と、論文のタイトル・著者といったキーワードから検索して特定論文を探す方法の2種類があります。

また、個人的にジャーナルリストを作成しておいたり検索式を保存したりすることも可能です。

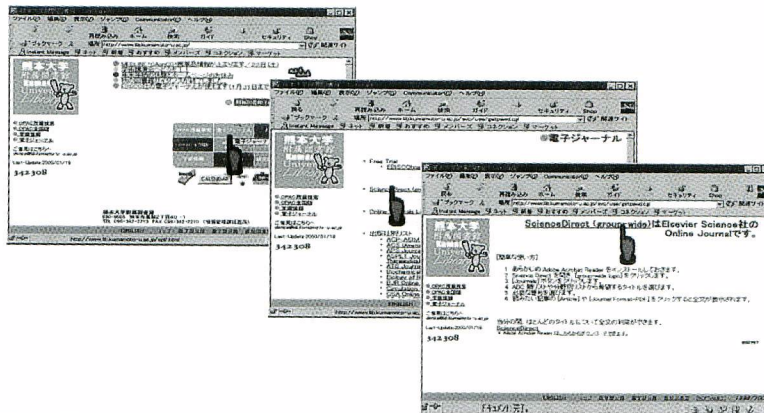
雑誌論文の表示方法としてはHTML形式とPDF形式があります。また、著者への電子メールや引用文献の抄録あるいは全文へのリンクが可能になっている場合もあります。

なお、利用にあたってはシステムの大量複製の禁止、学外者への供給・配付の制限等の注意事項を守って下さい。また著作権の保護にもご注意願います。

（電子情報係）

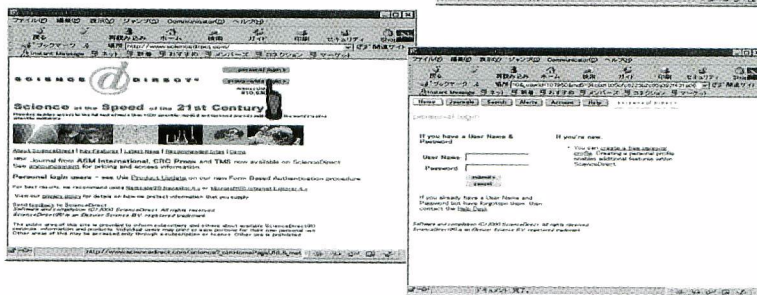
図書館のホームページからアクセスする

- “電子ジャーナル”を選択
- 電子ジャーナルサービスメニューのなかから“ScienceDirect”を選択
- ScienceDirectについての簡単な説明を確認し、リンク先をクリック



ログイン

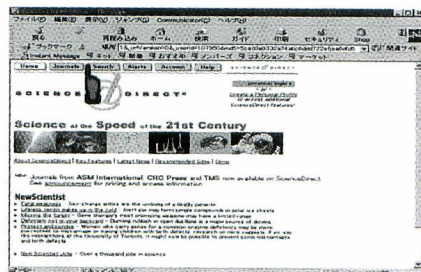
- 通常は“group-wide login”でログインします。
- 個人的に特定タイトルを検索したり検索式を保存したりする場合は、“Personal Login”を選択します。
- “Personal Login”の場合は事前にユーザ登録しておきます。



* 個人的に検索式を保存したりできる“Personal Login”利用の場合は、事前にユーザ登録が必要

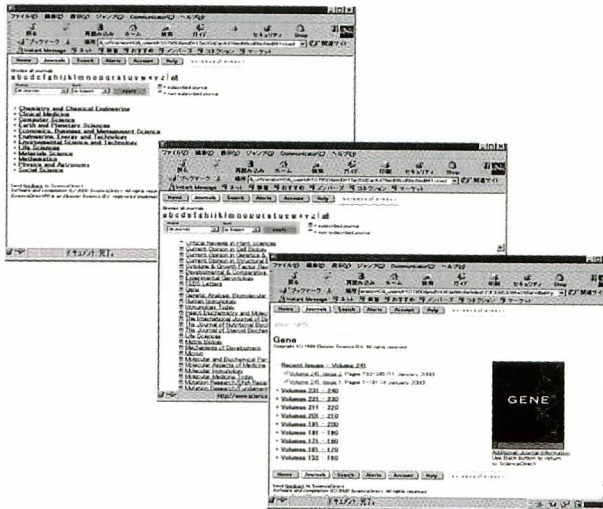
メニューを選択する

- 通常は“Journal”または“Search”のメニューを選択してください。



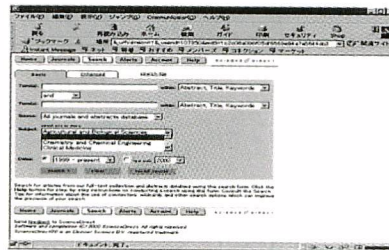
ジャーナリストから
特定雑誌を選択する

- ・タイトルのアルファベット順
 - ・分野別
 - ・出版社別
- で雑誌を選択します。
- ・特定巻号を選択します。
-
- ・個人用のリストを作成することも可能。



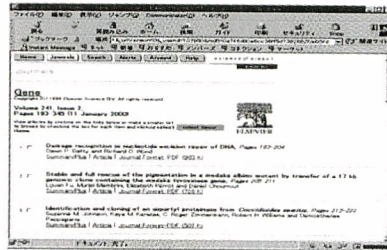
キーワード等で検索する

- ・論文タイトル中のキーワードや著者名等で特定論文を検索します。
- ・AND、OR等の演算検索ができます。
- ・雑誌や出版年等で限定することができます。
- ・より高度な検索ができる“Enhanced”検索もできます。
- ・個人的に検索式を保存したり実行したりできます。

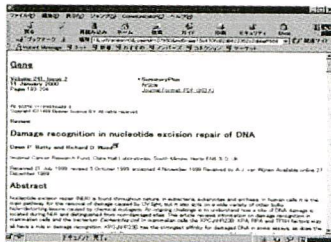


論文リストから選択する

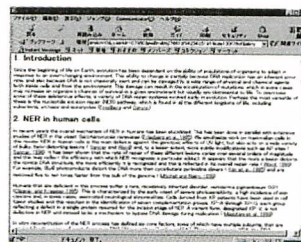
- ・雑誌のコンテンツや検索結果の簡略表示から特定の論文を選択する。
- ・各論文の詳細・全文表示の形式を指定することができます。



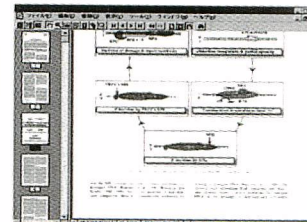
論文本文を見る、印刷する



[SummaryPlus]
論文の抄録や論文のアウトライン、図表、引用論文等が簡便に通覧できます。



[Article]
HTML形式で全文が利用できます。



[Journal Format (PDF)]
PDFファイルでダウンロードでき冊子体と同じ形式で印刷ができます。

本学教官寄贈図書(平成11年9月～12月)

★ASPECT熊大コーナーに配架しています★

- ◆新井英永助教授(文学部)
D・H・ロレンスと新理論 / 荒木正純, 倉持三郎, 立石弘道編; 新井英永[ほか著]. -- 東京: 国書刊行会, 1999.3.
中央館・教官著者コーナー: 930.28/D,69
Enlightened groves: essays in honour of Professor Zenzo Suzuki / edited by Eiichi Hara, Hiroshi Ozawa, Peter Robinson. -- Tokyo: Shohakusha, 1996.
中央館・教官著者コーナー: 930.4/E,62
- ◆大野龍浩助教授(文学部)
シルウ・イアの恋人たち / エリサ・ヘス・キヤスケル著; 大野龍浩訳. -- 東京: 彩流社, 1997.12.
中央館・教官著者コーナー: 933.6/G,25
- ◆隈元貞広教授(文学部)
The rhyme-structure of the Romaunt of the Rose-A: incomparaison with its French original Le Roman de la Rose / Sadahiro Kumamoto. -- Tokyo: Kaibunsha, 1999.
中央館・教官著者コーナー: 831.1/Ku,34
- ◆桑原莞爾教授(文学部)
イギリス資本主義と帝国主義世界 / 桑原莞爾[ほか]編. -- 第2版. -- 福岡: 九州大学出版会, 1994.7.
中央館・教官著者コーナー: 332.33/I,24
- ◆名島潤慈助教授(教育学部)
夢分析における臨床的介入技法に関する研究 / 名島潤慈著. -- 東京: 風間書房, 1999.10.
中央館・教官著者コーナー: 146.1/N,29
- ◆宮本光雄教授(教育学部)
子どもが生きる社会科授業: 実感的社会認識の育成 / 宮本光雄, 長崎県小学校社会科研究会著. -- 東京: 明治図書出版, 1985.4. -- (社会科教育全書; 29).
中央館・教官著者コーナー: 375.3/Mi,77
生活科の理論と実践: 授業づくりから評価活動まで / 宮本光雄編著. -- 東京: 東洋館出版社, 1990.11.
中央館・教官著者コーナー: 375.312/Se,17
社会科の基礎・基本と意欲的な追究活動 / 宮本光雄, 熊本県中学校社会科教育研究会編著. -- 東京: 東洋館出版社, 1992.3.
中央館・教官著者コーナー: 375.313/Sh,12
生活科と社会科の接続・発展: その理論と実際 / 宮本光雄編著. -- 東京: 東洋館出版社, 1996.12.
中央館・教官著者コーナー: 375.312/Se,17
- ◆社会科日本史研究室(教育学部)
外田文書と八代荘小熊野村の現況調査 / 熊本大学教育学部社会科日本史研究室編集. -- 熊本: 熊本大学教育学部社会科日本史研究室, 1998.3.
-- (熊本大学教育学部日本史研究室調査報告書; 第1号).
中央館・教官著者コーナー: 219.4/Ku,34/ (1)
山野に生きる人々の営みと歴史: 熊本県阿蘇郡阿蘇町大学湯浦地区の現地調査 / 熊本大学教育学部日本史研究室編集. -- 熊本: 熊本大学教育学部日本史研究室, 1999.3.
-- (熊本大学教育学部日本史研究室調査報告書; 第2号).
中央館・教官著者コーナー: 219.4/Ku,34/ (2)
- ◆北村泰三教授(法学部)
死刑と情報公開. -- 東京: インパ* 外出版会, 1999.11.
-- (年報・死刑廃止 / 年報・死刑廃止編集委員会編集; 99).
中央館・教官著者コーナー: 326.41/Sh,33
- ◆岩井善太教授、石飛光章教授(工学部)
制御工学 / 岩井善太, 石飛光章, 川崎義則著. -- 東京: 朝倉書店, 1999.3. -- (基礎機械工学シリーズ; 3).
中央館・教官著者コーナー: 548.3/I,93
- ◆市村憲司教授(大学院自然科学研究科)
水素: エネキ* の切り札となるか / 市村憲司著. -- 東京: 研成社, 1999.10. -- (のぎへんのほん. 元素をめぐる; 6).
中央館・教官著者コーナー: 435.11/I,15
- ◆熊本大学生命倫理研究会水俣病ク* ルフ*
熊本大学水俣病シンホ* シ* ム: 水俣病問題過去・現在・未来 / 熊本大学生命倫理研究会水俣病ク* ルフ* [編]. -- 熊本: 熊本大学生命倫理研究会水俣病ク* ルフ*, 1999.3.
中央館・教官著者コーナー: 493.152/Ku,34
- ◆吉田正憲名誉教授
ワス* ワスの『湖水案内』 / 吉田正憲著. -- 東京: 近代文藝社, 1995.5.
中央館・教官著者コーナー: 931/Y,86
- ◆松本壽三郎教授(文学部非常勤講師:元教授)
熊本藩御書集成 上・下 / 松本壽三郎編. -- 熊本: 細川藩政史研究会.
中央館・教官著者コーナー: 219.4/Ku,34/ (1)(2)

最近の図書館の動き(平成11年9月～12月)

職場体験実習実施

10月5日(火)、中央館で熊本市立桜山中学2年生7名が職場体験学習を行いました。インターネットによる蔵書検索や、カウンターでの貸出・返却業務を実際に体験してもらいました。

職員も初めての試みで戸惑いもありましたが、大学図書館の状況を理解してもらい、職場体験学習が有意義なものとなるように協力しました。

自動督促メールを試行

中央館・薬学部分館では、10月から、延滞図書に対する返却督促をE-メールでも連絡しています。督促メールについてのご意見等は

tokusoku@lib.kumamoto-u.ac.jp

までお願いします。(督促メールは、対応していない学部があります。)

利用者端末の増設

中央館では、利用者の要望により、端末を増設しました。新しい端末は、第一閲覧室の"ASPECT熊大コーナー"の横に設置しています。

また、カウンター周辺には、蔵書検索用の端末(OPAC専用)も増設しています。どうぞご利用下さ

い。

在校生ガイダンス終了

11月5日(金)から開始した「秋の図書館ガイダンス」が12月10日(金)で無事終了しました。

今回はPR不足もあり、受講生は春ほど多くはありませんでしたが、文献探索についての理解を深めてもらえたかと思っています。

来年度のガイダンスは、春・秋も引き続き実施しますが、新たに総合科目(前期)の授業にも協力し、より充実した内容を提供していく予定です。

法学部からの返却図書(第2期)

中央館では、法学部から2万冊の図書が返却されました。社会科学系図書(政治・法律・経済・社会等)は中央館・書庫へ配置し、スペースの関係上、それ以外の図書は、大教センターに隣接している旧館に配置しました。

法学部からは、今後も引き続き、図書・雑誌の返却が予定されています。

利用希望の方には、所蔵場所のデータ変換等が作業途中のため、大変ご迷惑をおかけしています。

委員会報告（平成11年9月～12月）

附属図書館運営委員会

■平成11年度第3回（10月20日）

[協議事項]

- (1) 夏季休業期間中の土曜、日曜開館
- (2) 学外利用者への貸出
- (3) 重複した図書館資料等の処分
- (4) 「学術資料調査研究推進室」（仮称）の設置
- (5) 図書館ガイダンス（基礎）の実施

[報告事項]

- (1) 電子図書館化専門委員会
- (2) 本荘地区分館（医学部分館）準備委員会
- (3) 学内情報関連施設等との懇談会
- (4) 大教センター教官研究室等移転に伴う返却図書等
- (5) 教育研究成果公開コーナー
- (6) 第16回特殊資料展、講演会
- (7) 「職場体験学習」の実施協力

■平成11年度第4回（12月13日）

[協議事項]

- (1) 平成13年度概算要求
- (2) 利用細則の改正
- (3) 大学教育研究センター等改修にかかる図書の返却
- (4) 年末年始の開館
- (5) 図書館システムのリプレース
- (6) 学術雑誌所蔵調査

[報告事項]

- (1) 第3回電子図書館化専門委員会
- (2) 学術資料調査研究推進室の発足
- (3) 図書館ガイダンスの実施状況
- (4) 第16回特殊資料展・講演会の実施

附属図書館専門委員会

■平成11年度第2回選書専門委員会（10月20日）

[協議事項]

- (1) 中央館備え付けの学生用雑誌の見直しについて

■平成11年度第2回電子図書館化専門委員会（10月13日）

[協議事項]

- (1) 平成11年度電子化関連事業の進捗状況
- (2) 電子ジャーナルの整備方針
- (3) 基盤整備事業の要求仕様項目

■平成11年度第3回電子図書館化専門委員会（12月7日）

[協議事項]

- (1) 電子化関連事業の進捗状況
- (2) 学内資料電子化
- (3) 著作権処理方式
- (4) 図書館業務用電子計算機システムのリプレース
- (5) 電子図書館化基盤整備事業の要求仕様（案）

薬学部分館図書委員会

■平成11年度第3回（9月27日）

[協議事項]

- (1) 平成11年度薬学部分館備付け学生用図書の選定について
- (2) 監視カメラの導入について
- (3) カラーコピー機の導入について

[報告事項]

- (1) 4年生の時間外利用の開始について

日誌（平成11年9月～12月）

9.21	レファレンス・ケースDB構築検討WG会議	11.18	第37回日本薬学図書館協議会九州地区会議（九州大学）
9.27	薬学部分館図書委員会	11.18	熊本県書誌総合目録ネットワーク調査委員会（熊本県立図書館）
10.5	職場体験実習／熊本市立桜山中学2年生	11.26	学術資料調査研究推進室開室式
10.13	第2回電子図書館化専門委員会	12.2-3	九州地区国立大学図書館電子化推進連絡会議（九州大学）
10.14	本荘地区分館準備委員会（医学部分館）	12.2-3	通商産業省次世代電子図書館システム研究開発事業（千葉・幕張）
10.20	附属図書館運営委員会	12.7	第3回電子図書館化専門委員会
10.21	両角工学部教授との懇談会	12.10	熊本県書誌総合目録ネットワーク調査委員会（熊本県立図書館）
10.21	九州地区国立大学図書館実務者連絡会議（佐賀大学）	12.13	附属図書館運営委員会
10.30-11.1	平成11年度特殊資料展	12.17-1.7	図書館相互利用サービス停止
10.31	公開講演会 吉村文学部教授	12.25-1.4	年末年始休館：中央館
11.1	図書館ホームページリニューアル	12.28-1.3	図書館システム停止：2000年問題対応
11.5-12.10	秋の図書館ガイダンス：初級編・基礎編	12.29-1.4	年末年始休館：医学部・薬学部分館
11.8-13	平成11年度図書館職員講習会（大阪大学）		
11.11-12	学術雑誌総合目録和文編2000年版データ作成説明会（大阪府立中央図書館）		
11.17-18	第12回国立大学図書館協議会シンポジウム/西地区（岡山大学）		

学術資料調査研究推進室を設置

「水俣病関係資料」「古文書」「ラフカディオ・ハーン」を調査研究

10月25日付けで附属図書館内に「熊本大学学術資料調査研究推進室」（以下、推進室）が設置され活動を開始しました。この推進室は、熊本大学における学術研究の成果を体系的に収集・保存・整理し、今後の教育研究活動に役立てること、熊本大学が所有する個性あるコレクションなどを調査研究し、電子化することによってその内容を広く学外へ情報発信することを目的としています。11月26日には江口学長出席のもとで、推進室の開室式が行われました。

推進室は、図書館長を室長として、取り組むテーマごとに学長が室員を委嘱しそれぞれの専門的な立場から学術資料の調査研究を行います。

近年、大学図書館は電子図書館的な機能を整

備し、電子的な手段による高度な情報提供サービスを行うことが求められており、熊本大学図書館においても電子化についての実績を上げつつあります。この電子図書館化の方向と今回の個性ある学術資料についての調査研究活動は、一体となって熊本大学の教育研究活動を支援し、且つ地域社会などへの情報発信をも実現させることとなります。図書館も研究開発機能を持つことにより、サービスの高度化へ向かって一歩足を進めたものと考えられます。



開室式で推進室の表札を掲示する江口学長と平山館長（後ろ向き）、左は岩崎事務局長

当面の間、取り組むスタッフは次のとおりです。

室長 平山 忠一

（附属図書館長 工学部教授）

○水俣病関係学術研究資料の整理収集

室員 丸山 定巳（文学部教授）

室員 浴野 成生（医学部教授）

室員 有馬 澄雄

（雑誌「水俣病研究」の編集責任者）

○熊本大学が所蔵する古文書の分析、研究
室員 吉村 豊雄（文学部教授）

○ラフカディオ・ハーン・コレクションの
データベース化の研究

室員 里見 繁美（文学部助教授）

編集後記：本誌も前号からDTPソフトを使った編集を行っています。電子媒体の並行作成、校正作業の正確性向上、編集時間の短縮化、さらにはコスト削減など欲張った理由から踏み切ったものです。前回苦勞して作成したレイアウトなどがコンピュータ西暦2000年問題で使用できなくなるのではと心配していましたが、このように無事稼働しています

その西暦2000年は、ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）の生誕150周年でもあります。また2004年は没後100年であり、この5年間はハーンに関するイベント等が予想されます。本誌でもハーンに関する記事をミニ特集として1年間連載いたしますので、お楽しみに。
熊本大学附属図書館報「東光原」（とうこうげん）*

25巻1号 平成12年（2000年）1月発行

発行所 熊本大学附属図書館

〒860-8555 熊本市黒髪2-40-1

TEL: 096 (342) 2273 FAX 096 (345) 9087

http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/tokogen/

編集 浜崎修一、梅尾勝征、甲斐重武、
永村典子、川内野祐子、浜崎千雅

※現在の中央館の敷地一帯が、旧制第五高等学校時代東光原と称する運動場であったことに由来する。